第十二講・文学的文章⑧

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

青森県でりんごを栽培しているという女性と、ある会合でご一緒した。その日は東京にお泊りになるとのこと。宿がたまたま私の住んでいる町と同じ方向だったので、帰りも一緒に地下鉄に乗った。

自分のことを「りんご園のおかみ」とその人は言う。小柄で、どこか少女を思わせる二重まぶたの目。おっとりとした話し方なので、その「りんご園のおかみ」という言葉も、なにか素敵な絵本の中の言葉のように、*1ロマンチックに響いた。

今年は天候が不順で心配だというような話をしながら、ふとその人は何かを思いついたらしく、いたずらっぽい目で私を見る。

①「そうだ、あなたに質問してみよう」

「えっ、何ですか」

②「りんごの花で布を染めると、どんな色になると思います？」

本物のりんごの花を、私は見たことがない。写真か何かで、たしか白っぽい花だったように記憶している。まるで*2根拠はないが、なんとなく淡いピンクかなという気がして、そう答えた。

「うふふ、正解はこれ」

ハンドバッグの中から取り出された一枚の木綿のハンカチ。広げると、③うすい黄色にうすいきみどり色を混ぜてやわらかくしたような色だった。幼いころ、風邪をひくと必ず母が食べさせてくれた、すりおろしたりんごの色にも似ている。そんな記憶も*3あいまって、私はしばらく、うっとりとそのハンカチに見入ってしまった。りんごの浴びた陽ざしがハンカチにも吸収されて、それが内側からやさしく光っ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ているような感じである。

「きれいですねえ」

やや間の抜(ぬ)けたタイミングで私がそう言うと、その人は嬉(うれ)しそうにほほえんで、④またきちんとたたみなおす。その手つきのやさしさは、りんごへの愛情をごく自然に感じさせた。

「私ね、これ、りんごのなみだ色って呼んでいるの」

「えっ、なみだ色？」

「そう。なみだ色」

その時、はかりしれない苦労がちらりと、「りんご園のおかみ」の顔を横ぎったように思われた。花の咲(さ)くよろこび、収穫(しゅうかく)のよろこび。けれどそこに至(いた)るまでには、数えきれない涙(なみだ)が流されている――⑤そういう意味だろうか、と思った。が、そういう意味ですか、とは聞けなかった。具体的にどういう涙ですか、とも問えなかった。それを表面に出さないところが、その女性の魅力(みりょく)のように思われたから。そういう涙は木綿にしっかり吸わせて、美しいハンカチにして、ハンドバッグにしのばせておく。⑥涙の意味は、決して言葉にはならないだろう。

私には、なみだ色のハンカチがあるだろうか、とふと思った。

りんごの花の咲く季節には、まだ遠い。

（俵万智(たわらまち)『りんごの涙』）

＊１ロマンチック＝現実的な世界をはなれていて、うっとりとするような美しい様子。空想的。

＊２根拠＝もとになる理由。

＊３あいまって＝たがいに作用し合って。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「そうだ、あなたに質問してみよう」とありますが、「りんご園のおかみ」はどのような言い方でこのことばを言ったと考えられますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　「しんけんな質問をしますね」と、改まった言い方

イ　「ためになる質問をしますね」と、自信たっぷりな言い方

ウ　「正解がわかるかしら」と、ちゃめっ気たっぷりな言い方

エ　「たいした質問ではないけれど」と、えんりょする言い方

問二　――線②「りんごの花で布を染めると、どんな色になると思います？」とありますが、「りんご園のおかみ」はこの質問の答えとして「私」に何を見せましたか。文中から十字で書きぬきなさい。

問三　――線③「うすい黄色にうすいきみどり色を混ぜてやわらかくしたような色」とありますが、このハンカチの色について「私」がさらにくわしく説明している一文を文中から二つさがし、それぞれの初めの五字を書きぬきなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　――線④「またきちんとたたみなおす」とありますが、この様子を見ていた「私」は、「りんご園のおかみ」から何を感じ取りましたか。文中から七字で書きぬきなさい。

問五　――線⑤「そういう意味」が指し示している内容を次のようにまとめました。□にあてはまることばを、Ａは九字、Ｂは十四字で文中から書きぬきなさい。

りんごの花が咲くよろこびやりんごを収穫するよろこびを感じるまでには［Ａ］があり、［Ｂ］という意味

Ａ

Ｂ

問六　――線⑥「涙の意味は、決して言葉にはならないだろう」を言いかえたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　涙の意味は本人にもよくわからないだろう。

イ　涙の意味を他人に説明することはないだろう。

ウ　涙の意味を説明しようとしても、つらくて言えないだろう。

エ　涙の意味は単純(たんじゅん)ではなく、言葉では表現しきれないだろう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　「りんご園のおかみ」が言ったことばのうち、「私」にとってもっとも印象的だったものを文中から八字でさがし、書きぬきなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①四万十川(しまんとがわ)で漁をして暮らしているおじさんに話を聞いた。舟(ふね)の上で、日本最後といわれる清流に浮(う)かびながら。

「柴(しば)づけ漁」というその漁法は、実に*1素朴(そぼく)なものである。柴をたばねたものを川に沈(しず)め、一週間から十日たったところでひきあげる。すると、そこに住みついた川エビやウナギがとれるというしくみだ。「住む」というのがミソで、だから囲いをしなくても逃(に)げられることはない。時間とともに獲物(えもの)が増えてゆくことはあっても、決して減りはしない。

柴は、おじさんが山で刈(か)ってくるという。「だから、半分は山の仕事」だそうだ。川エビとウナギでは住まいの好みが違(ちが)うらしく、ウナギのほうは葉っぱを多くしてやらないとだめ、とのこと。そのあたりは、長年の経験がものをいう。

目の前で私(わたし)のために、②ウナギをさばいてくれた。自然に川に*2棲息(せいそく)しているウナギは、とてもスマートだ。まず、*3キリのようなもので首のあたりをトンとついて、まな板の上に固定する。スーッと背中から包丁を入れ、ひらく。*4肝(きも)をとって骨をとってできあがり。三等分にしたものを、その場でかば焼(やき)にしてもらった。舟の上に、ちゃんとコンロが積んであるのだ。私はふだん、魚をさばく時には、なんとなく背中のあたりがすーすーしてしまう。③活(い)け造りの魚の目玉なども気になってしまうほうである。

が、④おじさんがウナギをさばいてゆく一部始終を見ていて、そんな感じは全くなかった。むしろ「美しいな」と思った。ほんとうにおいしくいただいた。

「ただ、ちょっとかわいそうな気もしますね……」

私がそう言ったとき、ぴっと一瞬(いっしゅん)、おじさんの顔がこわばった。

「それはしかたのないことじゃろ。人間に食べられるが、こいつらの運命よ」

終始なごやかな笑顔(えがお)で話してくれていたので、厳しい表情が、逆に鮮(あざ)やかに印象に残っている。まこ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

と⑤安易＊5に言ってしまった「かわいそう」を、後悔した。ふだん、自分が魚をさばいたり、活け造りの目玉を見たりして思う「気持ち悪い」という感覚も、同じ安易さからきているのではないかと思った。

⑥おじさんにさばかれるウナギは、ちっとも気持ち悪くない。その違いは何だろう。

　その違いは、魚とのつながり方ではないかと思う。同じ自然の中で生きているものとして、おじさんと魚はつながっている。都市で生活している私たちは、自然から離れた位置にあって、魚と関わりをもつ。だからいとも簡単に「かわいそう」と言えるし、無責任に「気持ち悪い」と感じてしまう。

⑦おじさんは漁をしながら、魚たちにどんな気持ちを抱いているのだろう。「かわいそう」ではなくて……。

　ごちそうさま、と言いながらさりげなく聞いてみた。しばらくの沈黙ののちに返ってきた答えは、「ありがとう」だった。

（俵万智『りんごの涙』）

＊1素朴＝ここでは、しくみが単純なこと。
＊2棲息＝生物が生きて、住んでいること。
＊3キリ＝材木などに小さな穴をあける、先のとがった道具。
＊4肝＝かん臓。
＊5安易＝深く考えることのない、気軽な様子。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「四万十川」が水のきれいな川であることを表している十一字の表現を文中から書きぬきなさい。

問二　――線②「ウナギをさばいてくれた」とありますが、おじさんがウナギをさばく様子を、「私」はどう感じましたか。文中から四字で書きぬきなさい。

問三　――線③「活け造りの魚の目玉なども気になってしまう」とは、どういうことを表していますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　魚の目玉につい目がいってしまうということ
イ　魚の目玉を気持ち悪いと感じるということ
ウ　魚の目玉の色や形に興味があるということ
エ　魚が新せんかどうかを目玉で確認（かくにん）するということ

問四　――線④「おじさんがウナギをさばいてゆく一部始終」とありますが、その様子が具体的に書かれているひと続きの三文を文中からさがし、その初めと終わりの六字を書きぬきなさい。

初め

終わり

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　おじさんの表情が大きく変わったことを表している七字のことばを文中から書きぬきなさい。

[　　　　　　　]

問六　――線⑤「安易に」と近い意味で使われていることばを、文中から二つ書きぬきなさい。

[　　] [　　]

問七　――線⑥「おじさんにさばかれるウナギは、ちっとも気持ち悪くない」とありますが、「私」は、自分で魚をさばくときに魚を「気持ち悪い」と感じるのはなぜだと考えましたか。次の[　　]にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

自然と離れて、都市で生活している自分は、魚と直接[　　　　　]いないから。

問八　――線⑦「おじさんは漁をしながら、魚たちにどんな気持ちを抱いているのだろう」とありますが、「私」のこの疑問(ぎもん)に対する答えとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　ほこらしい気持ち
イ　感謝の気持ち
ウ　申し訳(わけ)ない気持ち
エ　あきらめの気持ち

[　　]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　文学的文章⑧

一題目

問一　ウ
問二　一枚の木綿のハンカチ
問三　幼いころ、
　　　りんごの浴　（順不同）
問四　りんごへの愛情
問五　Ａ　はかりしれない苦労
　　　Ｂ　数えきれない涙が流されている
問六　エ
問七　りんごのなみだ色

二題目

問一　日本最後といわれる清流
問二　美しいな
問三　イ
問四　まず、キリの　～　できあがり。
問五　顔がこわばった
問六　簡単に
　　　無責任に　（順不同）
問七　つながって
問八　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。